

令和2(2020)年度  
酪農家へのアンケート調査  
結果報告書

— 酪農経営と公共牧場に関する調査 —

令和2(2020)年 11 月  
栃木県農政部畜産振興課

## 【酪農】

### 【調査概要】

#### 1 調査項目

- (1) 経営の概要
- (2) 公共牧場に関する意向

#### 2 調査対象

県内すべての酪農家 626 戸  
(家畜伝染病予防法第 12 条の 4 (定期の報告) に基づく)

#### 3 調査時期

令和 2 (2020) 年 8 月

#### 4 調査方法

酪農業協同組合の協力の下、集乳車での集乳時にアンケート用紙を配布・回収

#### 5 調査実施機関

栃木県農政部畜産振興課

協力機関

酪農とちぎ農業協同組合

栃木県酪農業協同組合

那須箒根酪農業協同組合

両毛酪農業協同組合

#### 6 回収結果

アンケート用紙を配布した 626 戸のうち、344 戸から回答があり、回答率は 55.0%である。

#### 7 報告書の見方

- (1) n は、回答総数または分類別の回答者数を表している。

また、M.T. とは、複数回答の設問の回答数を示す記号である。「複数回答」と記載のある質問は、複数回答を認めているため、回答計が 100%を上回る。

- (2) 百分率 (%) は、小数点以下第 2 位で四捨五入し、小数点以下第 1 位までを算出した。そのため、比率の合計値が 100%にならない場合がある。また、本文中の数値と図表の各項目の合計値が一致しない場合がある。

## 【調査結果概要】

## I 経営に関すること

## 1 経営内容

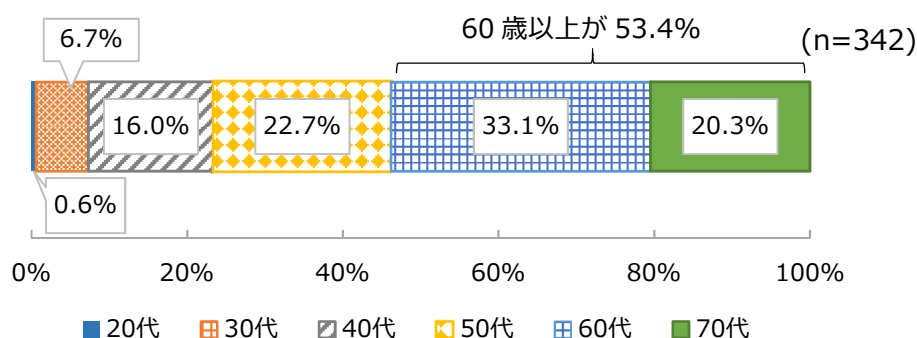
## (1) 居住地域

表1 回答者の居住地域

地区 項目	河内	上都賀	芳賀	下都賀	塩谷 那須南	那須	安足	未記入	計
回答者数(人)	6	25	30	24	31	209	11	2	344
割合(%)	1.7	7.3	8.7	7.0	10.8	60.8	3.2	0.6	100.0

## (2) 年齢

図1 回答者の年齢



## (3) 飼養頭数と草地面積

農林水産省の畜産統計に準じて飼養規模別に戸数を集計し、表2に示した。

飼養戸数343戸には経産牛頭数が100頭以上300頭未満のメガファームが30戸、  
経産牛300頭以上のギガファームが3戸含まれる。

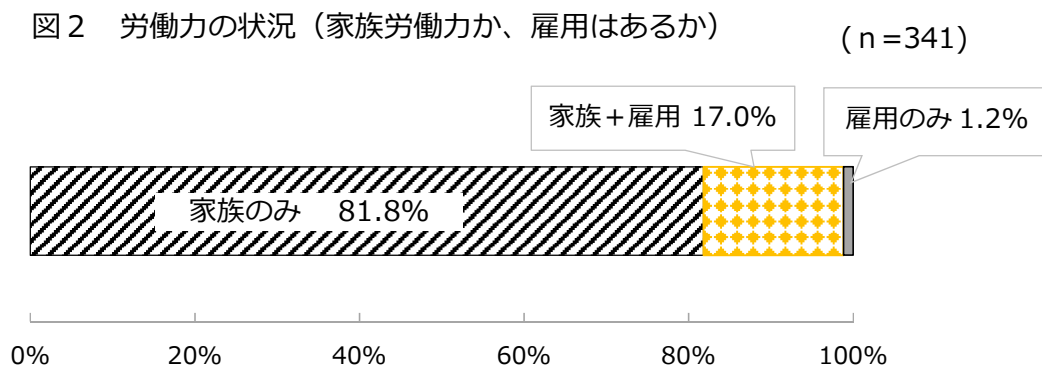
表2 経産牛の飼養規模別飼養戸数・頭数と草地面積

区分	計	1~19 頭	20~29 頭	30~49 頭	50~79 頭	80~99 頭	100頭 以上	300頭 以上
飼養戸数(戸)	343	74	61	102	61	12	30	3
割合(%)	100.0	21.6	17.8	29.7	17.8	3.5	8.7	0.9
平均飼養頭数(頭)	49.1 (中央値:35.0)	11.8	23.9	37.7	59.5	87.8	141.9	580
全飼養頭数に占める 割合(%)	99.9	5.2	8.6	22.8	21.5	6.3	25.2	10.3
酪農以外の他部門 導入農家数(戸)	74	15	12	21	15	5	5	1
うち 和牛繁殖(戸)	69	15	11	20	14	5	3	1
和牛子牛育成(戸)	4	-	-	1	1	-	2	-
肥育(戸)	1	-	1	-	-	-	-	-
平均草地面積(ha)	8.4 (中央値:7.0)	4.5	6.8	8.1	11.1	9.1	15.9	25.7

## 【酪農】

### (4) 経営形態

労働力が、家族労働力のみ酪農家は81.8%である。家族労働力の他、雇用労働力を利用して酪農家は17.0%であり、雇用労働力のみ酪農家が1.2%である(図2)。



### (5) 労働力

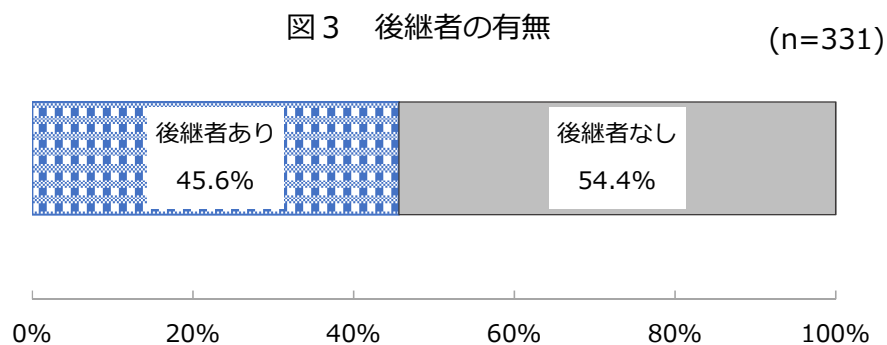
家族労働力のみ酪農家における労働力は平均2.4人、雇用を用いた酪農家では平均5.1人となっている(表3)。

表3 労働力の内訳

区分	戸数(戸)	平均労働力(人)	内訳
雇用労働力なし	226	2.4	家族労働力のみ
雇用労働力あり	45	5.1	家族労働力: 平均2.6人 雇用労働力: 平均2.7人

### (6) 後継者

後継者がいると回答した酪農家は45.6%である(図3)。



## 2 経営に関する取組

### (1) 5年後の経営規模

5年後の経営規模については、63.8% (213戸) が現状維持、19.2% (64戸) が規模縮小、17.1% (57戸) が規模拡大を予定している (図4)。

規模拡大を予定する57戸の内訳は、乳用牛のみを増頭する農家は44戸 (77.2%)、乳用牛・繁殖雌牛の両方を増頭する農家は12戸 (21.0%) である (表4)。

図4 5年後の経営規模 (予定)

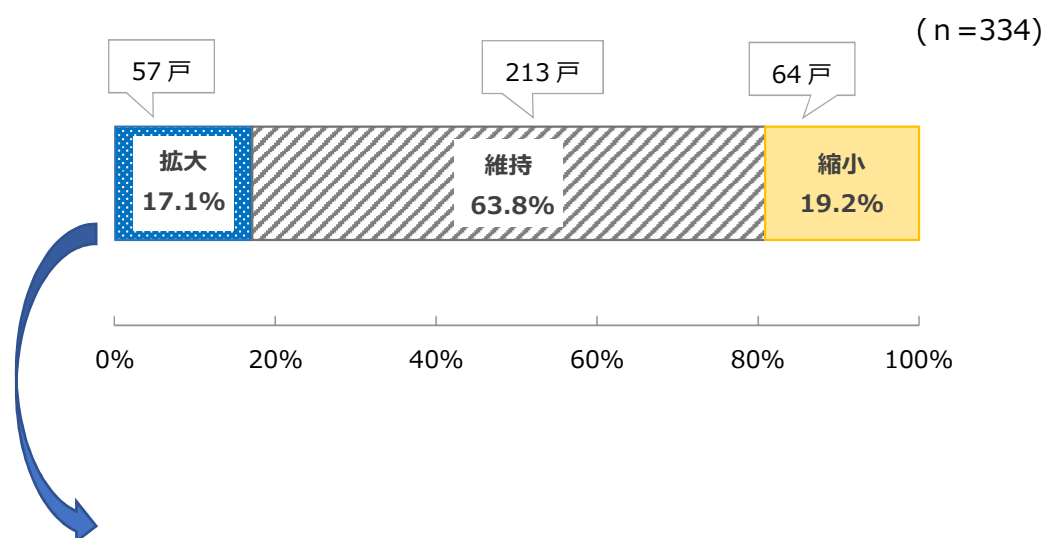


表4 規模拡大の概要

概 要	農家数 (%)	平均増頭数
規模拡大予定	57戸 (100.0)	123.0頭
乳用牛を増頭	44戸 (77.2)	124.1頭
乳用牛と繁殖雌牛を増頭	12戸 (21.0%)	乳用牛 96.6頭 繁殖牛 19.1頭

増頭畜種及び頭数の記載なし1戸 (1.8%)

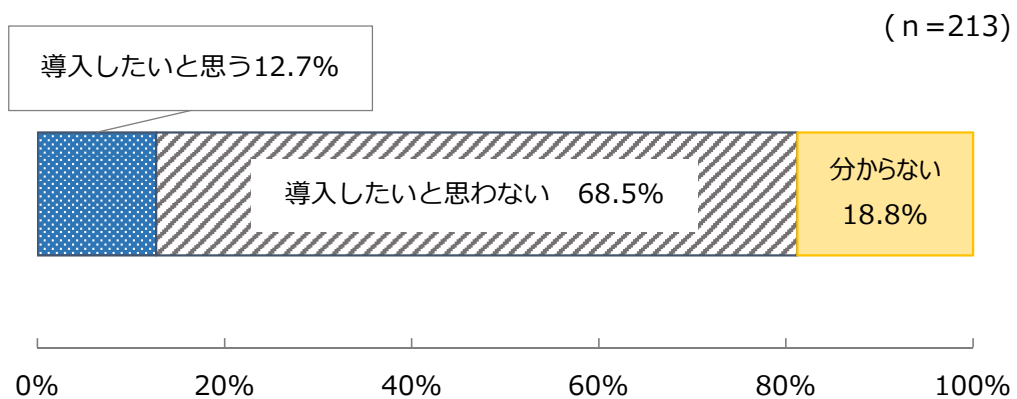
【酪農】

(2) 和牛繁殖雌牛を導入する意向について

問 5年後の経営で、繁殖雌牛を飼養する計画がない方がお答えください。  
繁殖雌牛を県内の公共牧場など外部に預託できる（周年を含む）場合、導入したいと  
思いますか。当てはまる項目に○をつけてください。

5年後に繁殖雌牛を飼養する計画がない農家に聞いたところ、繁殖雌牛を外部に預託  
できるとしても導入したいと思わない農家が68.5%となっている（図5）。

図5 繁殖雌牛導入の意向

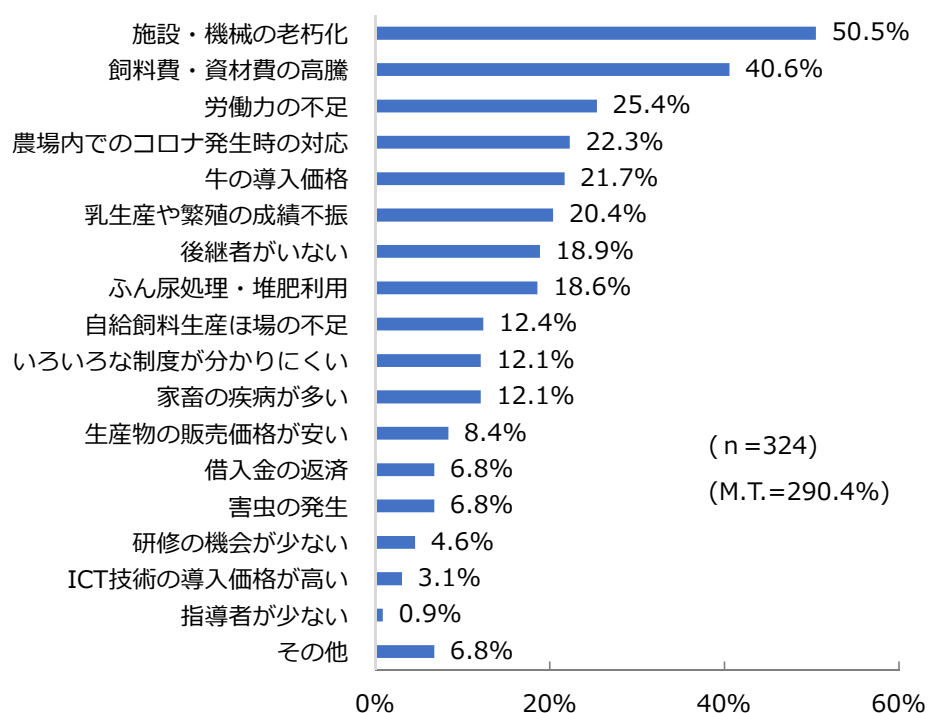


## (3) 経営上、困っていること（複数回答）

問 あなたの経営で特に困っていることは何ですか。当てはまる項目を3つ選んでください。

すべての酪農家に、現在の経営で困っていることを聞いたところ、50.5%が「施設・機械の老朽化」、40.6%が「飼料費・資材費の高騰」と回答している（図6）。

図6 経営上 困っていること



## &lt;その他の意見&gt;

- 飼料作物ほ場のクマ、イノシシ、カラス等の鳥獣害
- 農家数が減少したことで、関係団体等の役職負担が増加
- 書類の手続きが複雑
- 機械更新の補助事業がない
- 外国人労働者の不足（コロナで入国できない）

【酪農】

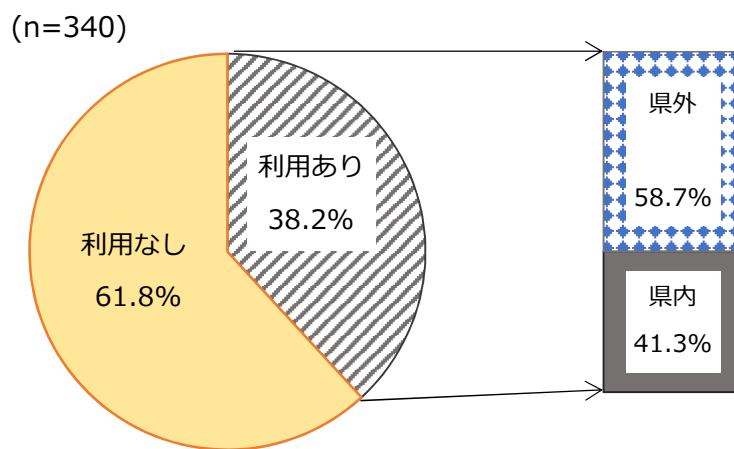
Ⅱ 公共牧場に関すること

1 公共牧場利用状況

問 あなたは現在、公共牧場を利用していますか。  
公共牧場を利用している方は預託先（県内、県外）を教えてください。

公共牧場を利用している酪農家は38.2%で、そのうちの58.7%は県外の牧場を利用している（図7）。

図7 公共牧場利用状況



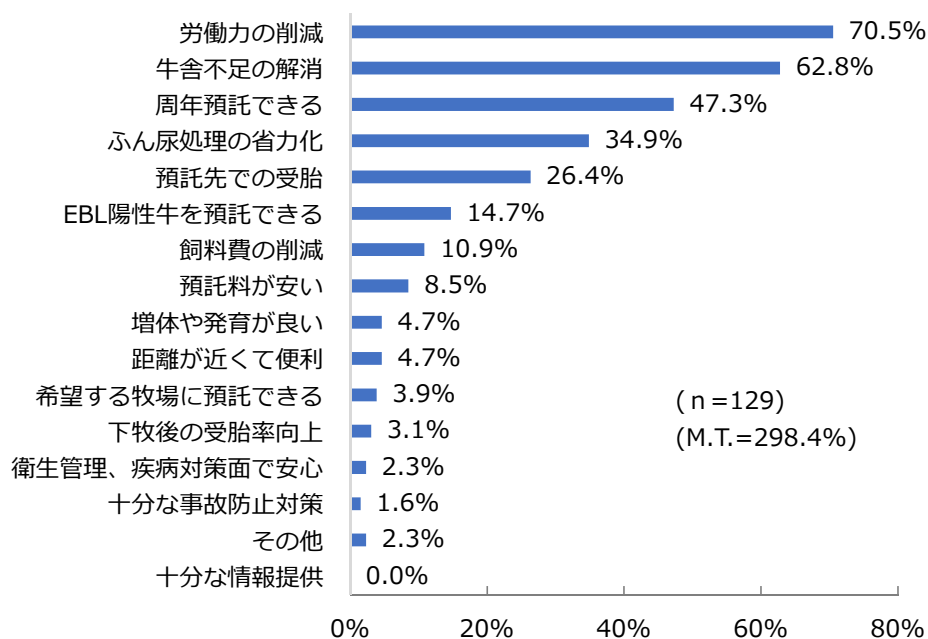


## 2 公共牧場を利用する理由（複数回答）

問 あなたが公共牧場を利用している主な理由を3つ選んでください。

公共牧場を利用している酪農家にその理由を聞いたところ、70.5%が労働力の削減を挙げている。次いで、牛舎不足の解消62.8%、周年預託47.3%となっている（図8）。

図8 公共牧場を利用する理由



<その他の意見>

- 四肢（足）が強くなるので。
- 自家農場に同時期生まれの（月齢に近い）牛がおらず、群編成ができない場合に利用する。

## 【酪農】

### 3 公共牧場に対する満足度

問 公共牧場に対する満足度を3（高い）・2（中間）・1（低い）で評価し、当てはまるところに○をつけてください。

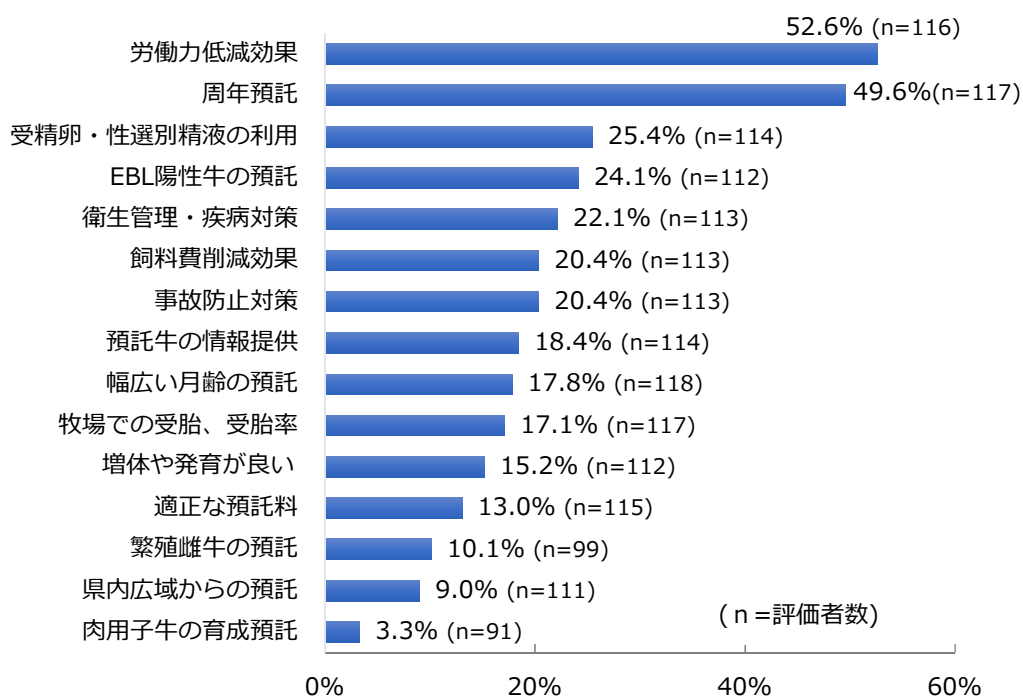
\*「肉用子牛の育成預託」は、農家に代わって肉用子牛を育成するキャトルセンターを想定したもの

公共牧場を利用している酪農家に満足度を3（高い）・2（中間）・1（低い）の3段階で評価してもらい、各設問に回答した人数（n）のうち3（満足度が高い）と評価した割合を図9に示した。

（例）労働力低減効果の場合、この項目に回答した人数は116人（n=116）、うち満足度が高いと回答した割合が52.6%である。

公共牧場を利用している酪農家では、労働力低減効果（52.6%）や周年預託（49.6%）に対する満足度が高い。

図9 公共牧場利用者の満足度  
（満足度を高いと評価した割合）



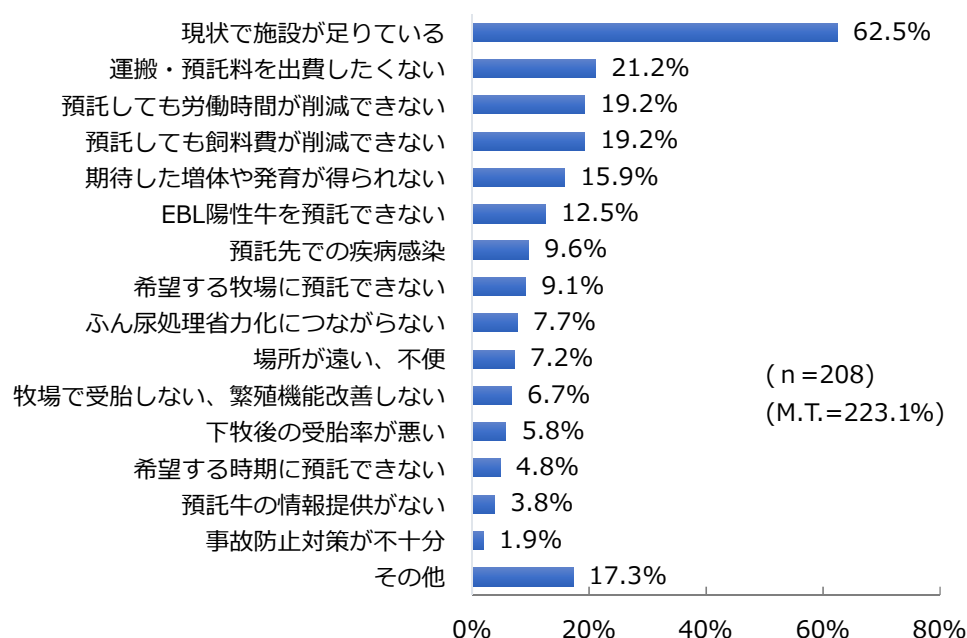
## 4 公共牧場を利用しない理由（複数回答）

問 あなたが公共牧場を利用しない主な理由を3つ選んでください。

公共牧場を利用していない酪農家のその理由を聞いたところ、現状で施設が足りている（62.5%）を選択した農家が多く、次いで運搬・預託料を出費したくない（21.2%）が挙げられている。

また、預託しても労働時間が削減できない（19.2%）という意見もある（図10）。

図10 公共牧場を利用しない理由



<その他の意見>

- 他の預託牧場や個人牧場を利用している（7件）。
- 預託するだけの育成牛がない。子牛の育成をしていない（7件）。
- 希望する牧場は収容頭数一杯（満員）で受け入れできない。
- 預託した際、発育不良や死亡事故を経験した。
- 経営上、労働力が不足、入牧・下牧時にトラックへの牛の積み込み等が手間。
- 高齢化や体力等の理由。（規模縮小も視野に）
- 自分で管理したい等、経営方針。
- 防疫のため。
- 公共牧場を知らない。

## 【酪農】

### 5 これからの公共牧場に求めること

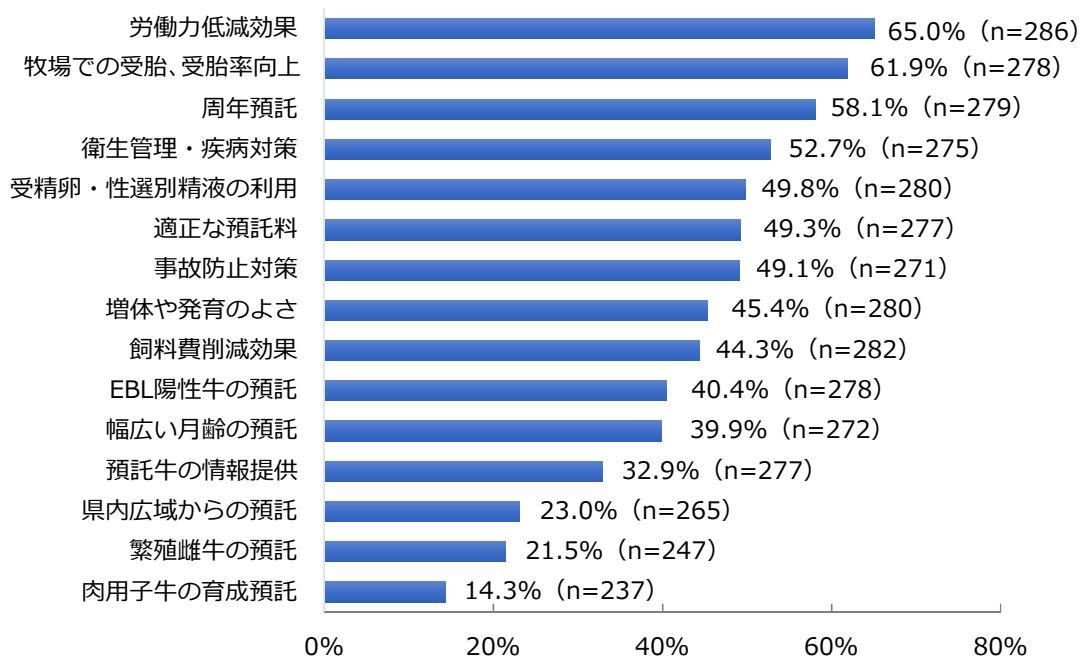
問 これからの公共牧場に求めることについて、次のそれぞれの項目の重要度をA（高い）・B（中間）・C（低い）で評価し、当てはまるところに○をつけてください。

これからの公共牧場に求めることについて、全酪農家に各項目の重要度をA（高い）・B（中間）・C（低い）の3段階で評価してもらい、各設問に回答した人数（n）のうちA（高い）と評価した割合を図11に示した。

（例）労働力低減効果の場合、この項目に回答した人数は286人（n=286）、うち重要度が高いと回答した割合が65.0%である。

これからの公共牧場に求めることでは、労働力低減効果（65.0%）、牧場での受胎や受胎率の向上（61.9%）、周年預託（58.1%）、衛生管理・疾病対策（52.7%）について50%以上の農家が重要度を高いと回答している。

図11 これからの公共牧場に求めること



### 6 その他自由意見

- 公共牧場や預託を利用したことがないので、わからない（6件）。
- EBL陽性牛を預託できる牧場を増やして欲しい（4件）。
- 公共牧場は将来的に必要と思う。増頭した際には利用したい（2件）。
- 牧場は牛の発育や受胎率が悪い（2件）。